

ますます広がる、不登校・ひきこもり支援の輪

より良い発展のためと、弊協議会の顧問にご就任いただきました。

【合羽井 徹 氏の経歴】

1997年11月17日～2012年4月

● 社団法人 北海道精神障害者家族連合会 事務局長 就任

● 同法人 精神保健福祉相談室 室長 兼務

1998年4月 同法人 専務理事 就任

2009年4月 同法人 会長 就任

1990年4月～97年4月 盲導犬学校国際連盟 日本代表 評議委員

2006年4月～2012年4月 保健福祉会連合会 評議委員

この度、弊協議会の顧問兼、弊協議会相談室室長に、前北海道精神障害者家族連合会の会長でもあった合羽井 徹 氏にご就任頂くこととなりました。

実際に、悩まれている方々からのご相談を窓口となって受けられていた等、様々な面でご経験を多くお持ちで、精神保健福祉に精通されていることから、今回弊協議会の活動に対し、ご支援・ご協力を頂く運びとなりました。

全国ニュースで、支援者の活動が取り上げられました。

平成24年10月18日(木)放送の『NEWS ZERO』にて、「ネット放送で語る“ひきこもり”の本音は？」というテーマの特集が組まれ、弊協議会の会員原科 佳衛(はらしな よしえ)さんがひきこもり支援相談士の活動として、ご紹介されました。

原科さんは、2年前にひきこもり支援相談士を取得し、静岡県で独自にひきこもり支援を行い、「清水ひきこもり研究所」を立ち上げ、インターネット放送でひきこもり当事者と直接話をして、支援活動を行っております。

このネット放送は、同時に複数人が視聴することができ、原科さんの会話を聞くことが出来ます。(URL:<http://com.nicovideo.jp/community/co1369060>)

ひきこもり当事者は、テキストにて文字を入力することにより、原科さんとの会話が成立する仕組みになっており、ひきこもり当事者からは、最後まで話を聞いてもらえる人がいることにより、自信を取り戻すことが出来たとの声も出ているといいます。



写真上：ひきこもり支援相談士 原科 佳衛 氏
写真下：清水ひきこもり研究所 窓口

ひきこもり対策、国の動きも活発化！

厚生労働省や内閣府では、現在障害者自立支援法から、障害者総合支援法(仮)への移行に向け、法文の検討も始まっています。平成23年8月5日に公布された障害者基本法では、発達障害を精神障害に含め、障害者の定義でも、身体・知的障害と同列で、障害者支援の一つに精神障害者への支援が取り込まれるようにもなりました。

ひきこもり状態を障害と捉える見方はまだまだ少ないかもしれませんが、障害者支援の枠組みが広がり、国の取り組みも大きな転換を迎えようとしていることは間違いありません。

今回の障害者総合支援法(仮)の制定に向けては、“障害を持っていても、支援が受けられない”等といった、支援の空白の解消や、障害者・健常者との間での格差の是正など、障害者支援が行き渡り、住みやすい社会作りが進められています。

いじめ問題が叫ばれる昨今、“人との違い”が偏見となり、様々な問題が起こる中、障害を持っている方々に限らず、「総合的な支援」が今、必要とされているのではないのでしょうか。

「不登校訪問専門員」が被災地で活躍！！

被災したことによって、肉体的にも精神的にも疲労を感じる“子どもたち”。周囲との関係が崩れ、『孤独』や『孤立』が広がる中で、いじめにより、自ら死を選ぶという報道が増え、そうしたところからも、震災が残した“傷跡”が本当に深いものであったことが感じられます。

そうした中で、不登校問題に立ち向かい、子どもたちの心の悩みに真摯に向き合い、手を差し伸べられる『不登校訪問専門員』が、被災地へ活躍の場を広げています。

故人の生きた証を残し、
“次の世代”につなげていきます。

遺品整理士養成講座

遺品整理は、これからの高齢化社会の中で
20年間は、確実に収益を上げ続けることのできる仕事とされておりま

●お問い合わせはこちらまで

 遺品整理士 0123-24-0528
認定協会 www.is-mind.org